

次の文章をよく読んで、5 ページから 9 ページの問いに答えなさい。

僕の家は東京の田園調布という住宅地の一角にある。おとうさんが生まれる数年前におじいちゃんが建て替えた家だそうだ。50 年くらい前にできた家だが、洋風建築で映画とかに出てきそうだ。僕はこの家が気に入っているが、今年になっておとうさんが建て替えをしないか、と言い出した。おかあさんは古くなったところを直すだけでいい、と言っていたけれども、おとうさんはせつかくだからいろいろ考えてみたい、と言っていた。

父「二世帯住宅にしたいと思うんだ」

僕「1階におじいちゃんとおばあちゃんが住むの？」

父「そのつもりだけど、おじいちゃんたちにも意見を聞かなければいけないね。もともと、この家はおじいちゃんが建てた家だからね」

僕「この家って昔から変わっていないの？」

父「基本的には変わっていないよ。建てた当時としては、新しいデザインだったんじゃないかな。もちろん、ア.便利な生活のほうがいいからね、いくつかは変えている部分もあるよ。でも、大きく見た目が変化するほどの建て替えはしていないんだ」

僕「おとうさんは、なんで建て替えたいと思ったの？ この家のデザインが気に入らないから？」

父「そういうわけじゃないよ。家族がもっと暮らしやすくなるためにはどうしたらいいかって考えたからなんだ。おとうさんもこの洋風のデザインは気に入っているよ」

僕「洋風建築にしようと思ったのはおじいちゃんなの？」

父「おとうさんも直接見たわけではないけれども、建て替える前の家も洋風だったそうだよ」

僕「へえ。でもそのころの日本だと、畳や瓦を使った和風の建築物の方が多かったんじゃないの？」

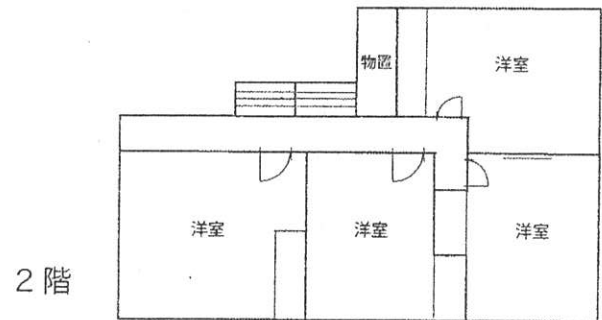
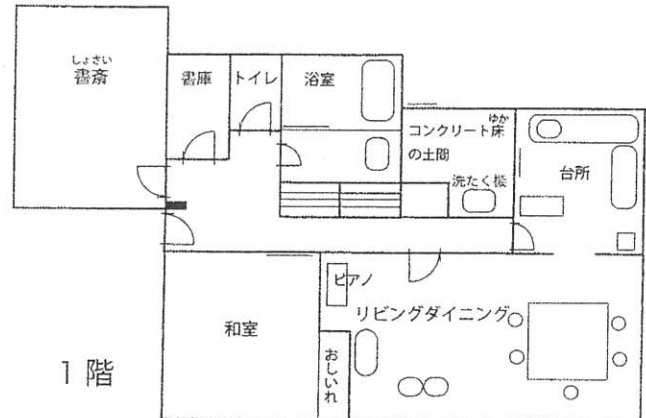
父「確かに、イ.瓦屋根は多かっただろうね」

僕「瓦って日本で生まれたものなんでしょう？」

父「いや、実はちがうんだ。瓦づくりは中国や朝鮮半島から伝わった技術で、瓦を使った建築物は、奈良時代に一度広まったけれども、平安時代はそれほど多くないんだよ」

僕「瓦は日本で発明されたと思っていたよ。そういえば、ウ.平安時代は日本風の建築物が建てられたと学校で習ったよ。でも、じゃあ、その後瓦が広まったのはいつなの？」

父「そうだね、工.鎌倉時代や室町時代も瓦は少ないね。瓦屋根が一般的になったのは江戸時代だよ。建築物は、社会の変化や建築技術の開発など、いろいろなものに影響されて変わ



50年くらい前に建てられた僕の家の間取り図

っていくものなんだ」

明治時代になると西洋の建築技術が入ってきて、建て方とか素材とかにも大きな変化があったという。特に、関東大震災の後には、災害に強い鉄筋コンクリートの建築物が増えたらしい。そんなことを話しながらおとうさんが何枚か写真を見せてくれた。

父「関東大震災後、東京では学校の校舎も木造から鉄筋コンクリートに変わっていったんだ。これ（右上の写真）は1930年代につくられた校舎だけれども、頑丈そうだろう？」

僕「そんなに古い校舎なんだ。じゃあ、こっちの写真（右下）は何？」

父「これはオ、同潤会アパートとよばれる集合住宅だよ。同潤会は、関東大震災の後に、被災者の生活を再建することと、住宅を確保することを目的に結成された団体で、あちこちにこのような住宅をつくったんだ」

僕「同潤会アパートも、まだ使われているの？」

父「いや。数年ほど前までは使われていたけれどね。最後のアパートが解体されたのは2013年だよ」

僕「それでも80年くらい使っていたんだ！住み続けたいという声とか、文化財にするという話はなかったの？」

父「もちろんあったよ。ただ、見た目をそのままにして改修するには住民の負担も大きいし、文化財として整備するのも費用がかかるらしいよ。だから、今の建築基準に合わせて改修することを考えると、解体して新しいマンションにした方が安かったんじゃないかな」

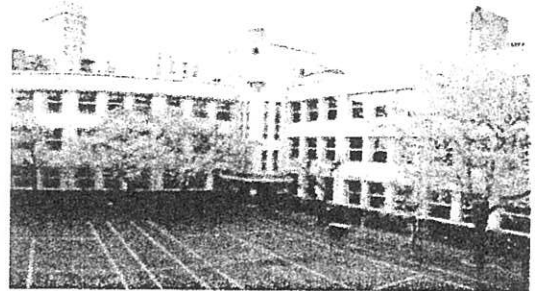
僕「住んでいた人はいっぱい思い出があっただろうね。自分が住まなくても残したかったんじゃないかな」

父「そうだね。ただ、建築物に対する人びとの思いはそれぞれだから、みんなが残すことに賛成したわけではないんだ」

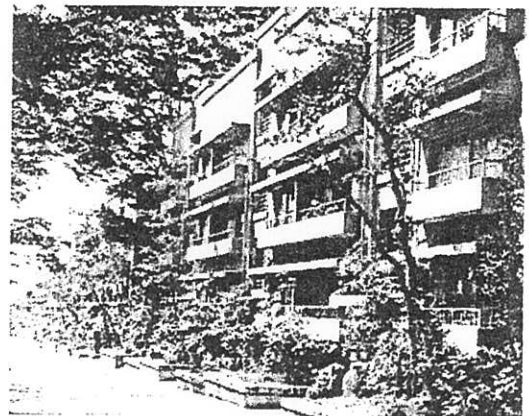
僕「建築物を残すって大変なんだね」

父「うん。カ、役割を終えた建築物を残すことは難しいんだ」

うちの場合は、家族で話し合っただけで決めればよいから、まだ意見はまとまりやすい。でも、アパートやマンションの場合は住民の多くが賛成しなければならないから、建て替えを決めるのも大変なんだそうだ。「マンションの住民同士で話し合うのは大変なのよ」と、以前、多摩ニュータウンに住んでいる「多摩のおばちゃん」（おじいちゃんの妹）が言っていた。



麻布中学校校舎



同潤会アパート

僕「そういえば、多摩のおばちゃんはなぜ多摩ニュータウンに住もうと思ったのかな？」

父「結婚して子どもが生まれた時に、夫婦で話し合っ^あって決めたそうだよ」

僕「どういうところに注目して決めたのかな？」

父「キ.1970年代、多摩ニュータウンは新しくつくられたばかりの住宅地で、まだ土地の値段も安かったんだよ。都心の混雑したところより広くて、当時は子育て世代に人気があったんだって」

僕「おじいちゃんがこの家を建て替えた少し後だね。じゃあ、田園調布っていつぐらいにつくられた住宅地なの？」

父「田園調布は、大正時代につくられた住宅地だよ」

僕「けっこう歴史があるんだね。住宅地になる前はどんなところだったの？」

父「雑木林や原っぱが広がっていたんだよ」

僕「なぜここに住宅地をつくることになったの？」

父「いろいろな理由があるけれど、都市問題を解決しようとしたことが大きいかな。当時、都心から東側に集中した職場や住宅を、どうやって郊外に分散していくかが課題でね、イギリスの田園都市計画を参考にしたんだ」

僕「でも、田園調布には大きな会社や工場はないよね。昔はあったの？」

父「田園調布は鉄道を敷くことで、ベッドタウンとして整備されたから、職場は都心から移されなかったんだ」

僕「ベッドタウンって何？」

父「都心に通勤する人のための郊外の住宅地だよ。田園調布の場合は、広い空間や豊かな自然、衛生環境が整っていることが特徴だったんだ」

僕「田園調布って、今は自然豊か、というイメージじゃないけれど・・・」

父「でも、公園があつたりするだろう。比較的緑の多い住宅地だと思うよ。それに大きなマンションとかは少ないだろう？ こういうのも田園調布の特徴なんだ。この街には田園調布会という会があつて、街並みを保護する活動をしているんだ」

僕「保護する活動がないと街並みは崩れてしまうの？」

父「そうだね。広くて緑が多い住宅街を維持していくのは難しいんだ。この地図を見てごらん」

そう言っておとうさんは、田園調布会が活動している地域を調査した地図（4ページの地図1）を見せてくれた。

父「田園調布は、おとうさんが小さいころから少しずつ土地の値段が上がって行ってね。それともなって土地に関係した税金がすごく高くなった住宅地なんだ」

僕「土地に関係した税金って大変なの？」

父「固定資産税とか、相続税とか、いくつもあるんだよ。こういう税金を払うのが大変だったこともあつて、田園調布に住み続けたくても出て行くしかない人もいたんだ」

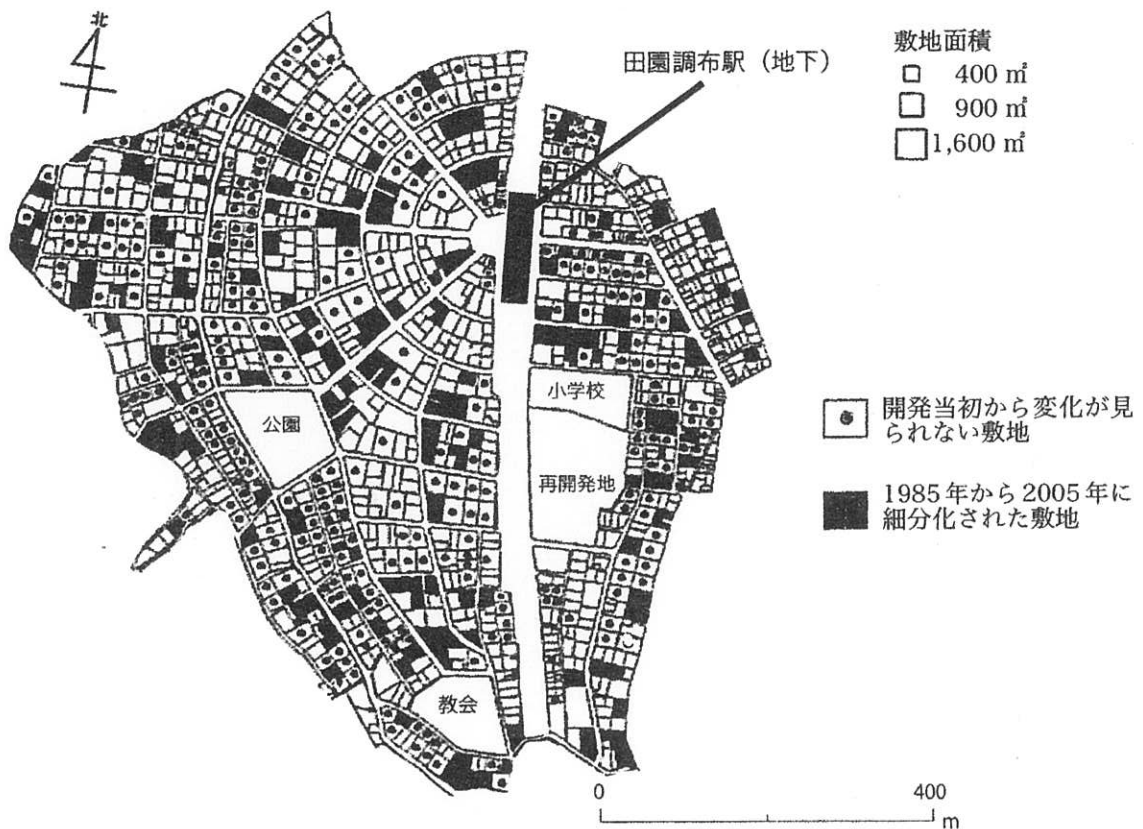
僕「地図には『1985年から2005年に細分化された敷地』ってあるけれど、なぜこの調査は

細分化に注目したの？」

父「この調査は、広い敷地を維持できなくなって、田園調布の特徴が失われていく様子をまとめたものなんだ。土地が広いとお金がかかるから、細かく分けて売り出そうという人が増えたんだよ。そういうこともあって、ク.田園調布会がいろいろなルールを決めて、街並みを保護する活動をするようになったんだ」

僕「うちもそのルールを大事にしなければいけないだね」

父「そうだね。どうやったら、家族みんながなるべく長くここに住むことができるかを考えている。外見を大きく変えないようにしながら、二世帯住宅にしておいたら、いいんじゃないかな。将来、お前が家族を持った時にも一緒に住みやすいだろう？」



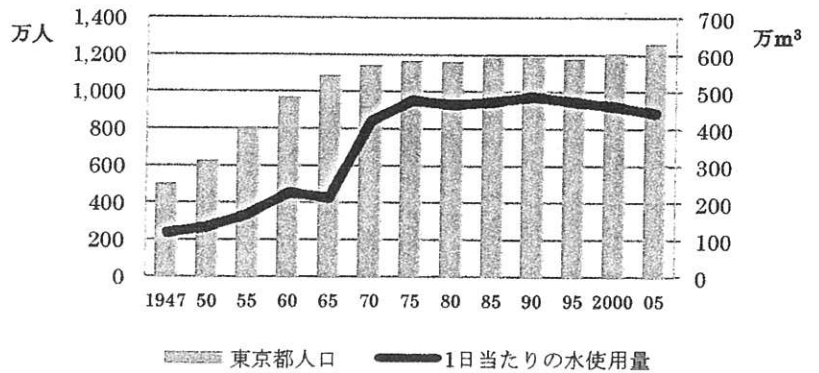
地図1 1985年から2005年にかけての敷地の変化

正直なところ、おとうさんが、僕がおとなになった時のことまで考えているとは思わなかったの、とまどった。僕はここにずっと住みたいと思っているけれども、結婚して新しい家族と一緒に住み始めるなんて、全く想像できない。それに僕たちがおとなになった時は、今よりも、もっと高齢社会とか、人口減少とか、そういう問題が深刻になっているだろう。ケ. そういう時代に向けて、どういふふうに建築物を工夫したらいいのだろうか。とても難しい問題だ。このことは、僕の家族や街のことだけではなく、もっと広い視野で考えなければならないと思った。

問1 下線部アについて。グラフ1は東京都の1日当たりの水使用量と人口の移り変わりを表したものです。

(1) 1965年から1970年にかけて、人口に比べて水の使用量が大きく増加しているのはなぜでしょうか。僕の家の間取り図を参考にして答えなさい。

(2) 1995年以降、人口が増加しているにもかかわらず、水の使用量が減少しているのはなぜでしょうか。答えなさい。



グラフ1 東京都の1日当たりの水使用量と人口の移り変わり

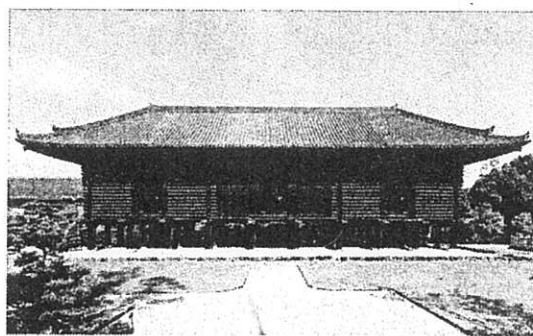
問2 下線部イについて。瓦を使った以下のあ～うの建築物の名前と建てられた場所（現在の都道府県名）を答えなさい。



あ



い



う

問3 下線部ウについて。平安時代に中国の影響をあまり受けず、独自に発展した文化を国風文化こくふうといいます。

- (1) この時代の有力な貴族の邸宅ていたくの建築様式を何といいますか。答えなさい。
- (2) (1)の様式の邸宅で開かれた宴会えんかいで「この世をば わが世とぞ思う もちづきの 欠けたることも なしと思えば」という歌を詠んだ人物の名前を答えなさい。
- (3) 国風文化の例を、(1)の建築様式以外に一つ答えなさい。

問4 下線部エについて。江戸の町では武家屋敷や寺院以外にも、次第に瓦屋根の建築物が増えていきました。なぜ江戸の町で瓦屋根が必要とされたのでしょうか。答えなさい。

問5 下線部オについて。

(1) 同潤会のアパート建設事業の目的は多様で、さまざまな特徴をもったアパートがいくつもつくられました。右下の表にあげた3カ所のアパートの特徴について述べた文章として、最もふさわしいものは下のあ～おのうちどれでしょうか。地図2も参考にしながら、それぞれ記号で答えなさい。

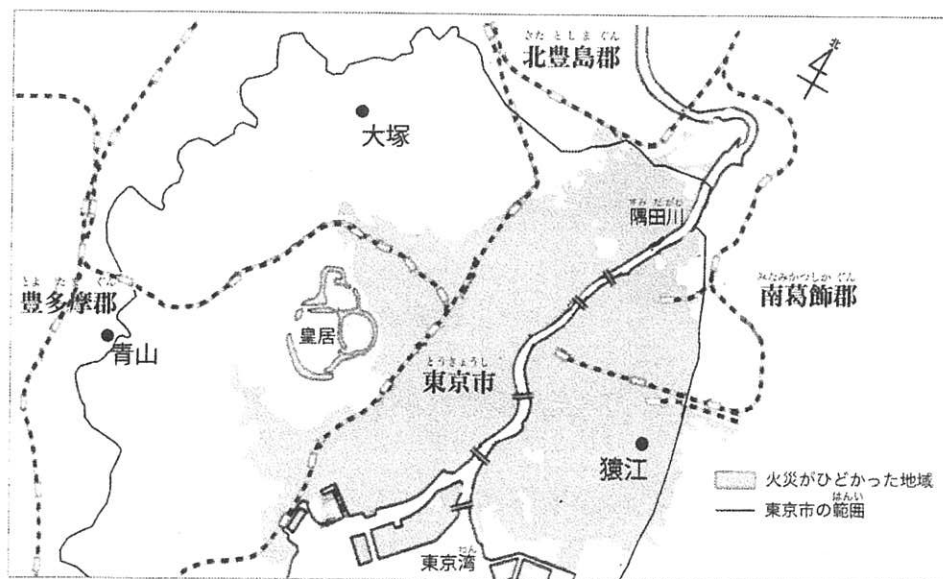
- あ 貧しい人びとの住む地域の整備と、仕事を中心とした被災者の生活再建を目的に建てられた。
- い アパート建設事業の完成形で、家族向けから独身向けまで、多くの人びとが暮らせる工夫をこらして建てられた。
- う 職業婦人とよばれた働く独身女性を対象につくられ、女性の過ごしやすい付属施設があることで注目された。
- え 被災地域では土地買収が進まなかったため、市街地から離れた土地に中流家庭向けの住宅としてつくられた。
- お 震災からの復興が進むなか、被災地域への新たな移住者を対象としてつくられ、都心の静かな地域の住宅として注目された。

表 3つの同潤会アパート

所在地	あおやま 青山	さるえ 猿江	おおつか 大塚
土地買収年	1925	1926	1928
完成年	1926	1927	1930
家族向け	137	251	
独身向け			149
店舗※1		43	5
その他	1		4
合計戸数	138	294	158
付属施設	児童遊園	児童遊園 ぜんりんかん 善隣館※2	食堂 浴室 日光室 音楽室 応接室

※1 アパートの建物の1階にある店

※2 住民に職業紹介などをする総合福祉施設



地図2 関東大震災の被害状況と3つの同潤会アパートの所在地

(2) 同潤会はアパートに入居する人に向けて、入居規定(資料1)を示しています。80年以上前のものですが、現代のアパートやマンションで暮らす時に参考になる部分もあります。これをよく読み、図も参考にして次の①と②に答えなさい。

① 管理組合の役割は何ですか。

② 同潤会が、管理組合とは別に町内会への加入を勧めているのはなぜだと考えられますか。

資料1 同潤会アパートの入居規定(1930年ごろに発行されたもの)より

アパートご入居についてのご注意

ご入居になる時には、次のことをお守りください。また、アパートの同じ入り口をご利用になっている各戸にはそれぞれ管理組合を組織していただいておりますので、必ずご加入ください。

○階段、廊下、下水について

(一) 各戸の玄関先や、廊下、階段のおどり場には、牛乳ビンや掃除道具などの品物を置かないこと。

(二) 管理組合で相談して階段や下水道などの掃除をすること。

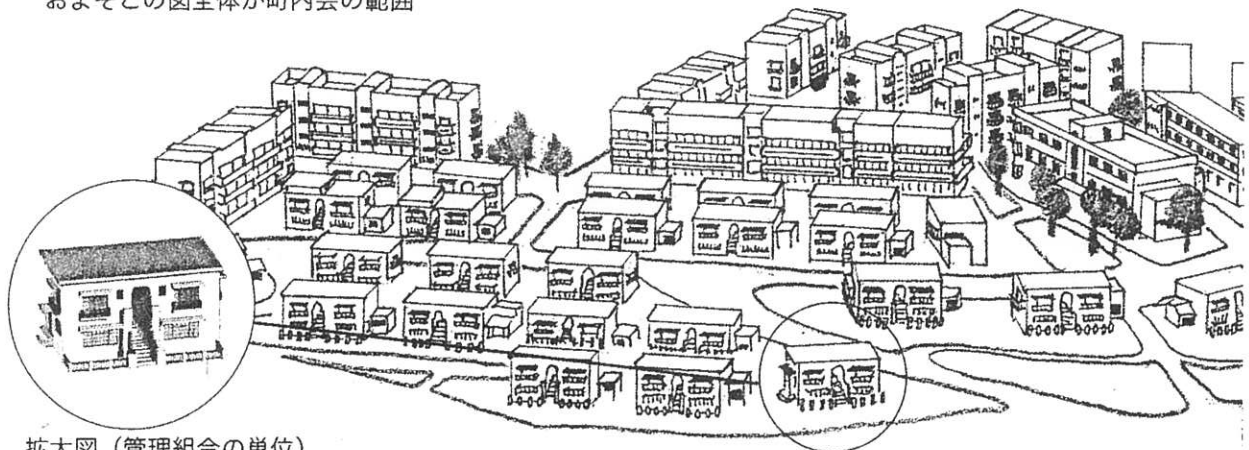
(三) 共同で利用する場所の電球の取りかえなどは当番を定めていますので、くわしくは隣の方などにご確認ください。

○その他

このアパートでは町内会が組織されています。これは同潤会が組織したものではありませんが、会費も少しですので、ご入会をお勧めいたします。

※文章は出題者がわかりやすく書き直しています。

およそこの図全体が町内会の範囲



拡大図(管理組合の単位)

図 同潤会アパート(代官山)再現図

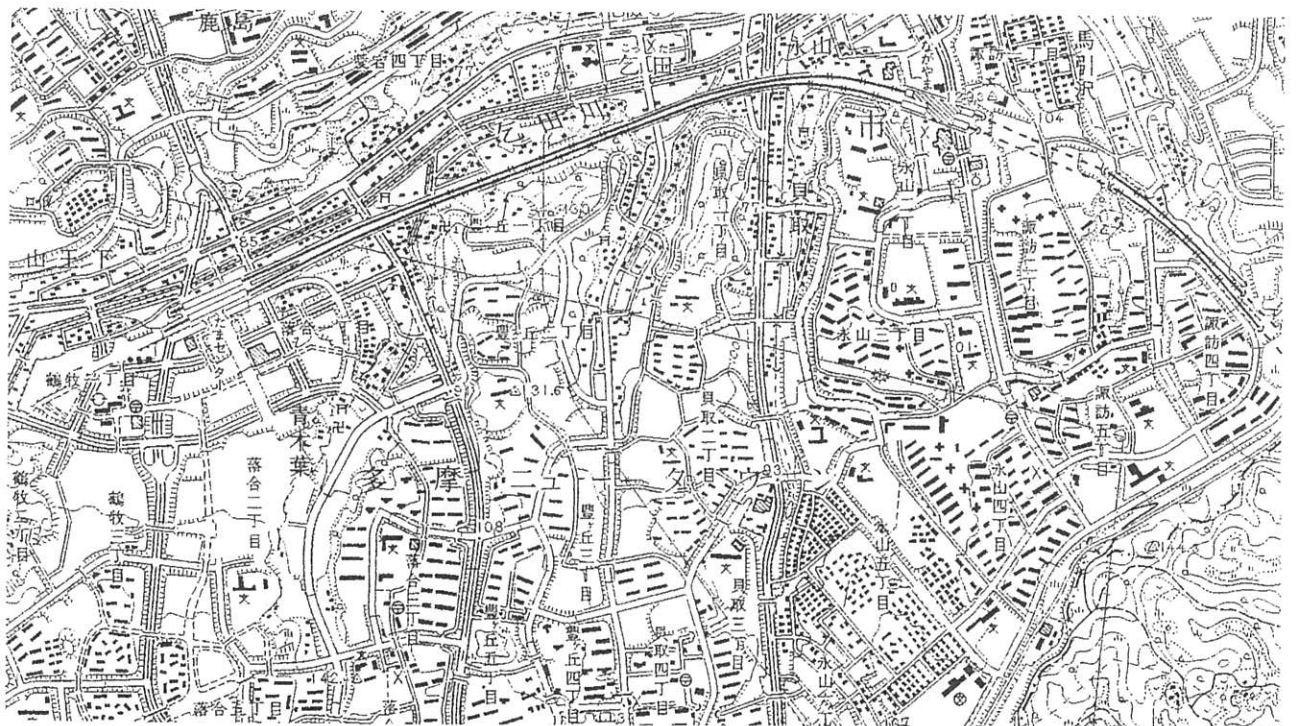
問6 下線部力について。役割を終えた後も、こわされずに残され、新しい役割を担っている建築物があります。具体例を一つあげ、どのように役割が変化したのかを説明しなさい。

問7 下線部キについて。下の地図は、多摩ニュータウンができる前（地図3）と入居が進んだころ（地図4）のものです。この2枚の地図を比べて以下の問いに答えなさい。

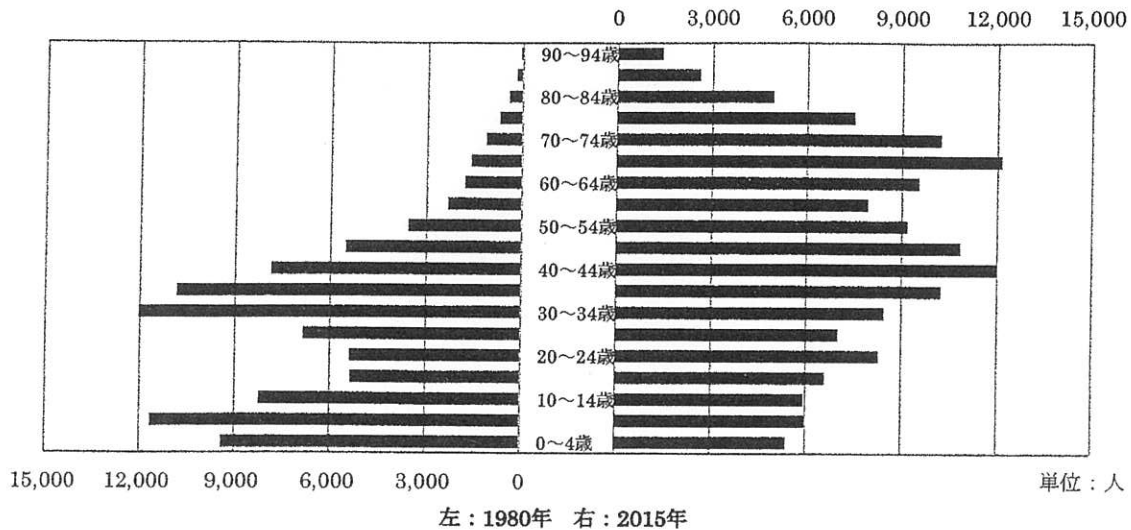
- (1) 多摩ニュータウンではどのような地形のところに住宅がつけられましたか。
- (2) 9ページのグラフ2は多摩ニュータウンのある東京都多摩市の1980年と2015年の5歳ごとの人口構成を表したものです。現在多摩ニュータウンに住む人びとは、(1)との関係で、どのような問題をかかえていると考えられますか。



地図3



地図4



グラフ2 多摩市の人口構成

問8 下線部クについて。田園調布は、資料2にあるような憲章が定められ、つくられた当時の街の環境が維持されてきたこともあって、高く評価されてきました。しかし、人びとのものの見方が変わり、憲章の受けとめ方も多様化したため、憲章にあるような街の環境の維持は難しくなっているといわれています。街の環境の維持が難しくなったのは、憲章がどのように受けとめられるようになったからでしょうか。資料2を参考にし、人びとのものの見方の変化と関連づけて説明しなさい。

資料2 田園調布憲章 (1982年制定) の一部

- 1 この由緒ある田園調布を、わが街として愛し、大切にしましょう。
- 2 創設者渋沢翁[※]の掲げた街作りの精神と理想を知り、自治協同の伝統を受け継ぎましょう。
- 3 私たちの家や庭園、垣根、塀などが、この公園的な街を構成していることを考え、新築や改造に際しては、これにふさわしいものとし、常に緑化、美化に努めましょう。
- 4 この街の公園や並木、道路等公共のものを大切にし、清潔にしましょう。
- 5 互いに協力して環境の保全に努め、平和と静けさのある地域社会を維持しましょう。
- 6 不慮の災害に備え、常日ごろから助け合いましょう。
- 7 隣人や街の人々との交わりを大切にし、田園都市にふさわしい内容豊かな文化活動を行いましょう。

※創設に関わった渋沢栄一のこと

問9 下線部ケについて。わたしたちは社会の変化に応じて建築物を工夫し、さまざまな問題を解決してきました。しかし、広い視野で見直すと、また別の問題が見えてきます。下の例から一つ選び、こうした工夫がどのような社会の問題を解決してきたかということと、見えてきた別の問題を、100字~120字で説明しなさい。ただし、句読点も1字分とします。

- | | | |
|-------------|-----------------|---------|
| 例 防犯カメラ付き住宅 | オール電化住宅 | 高層マンション |
| 震災復興住宅 | 郊外の大型ショッピングセンター | |

〈問題はここで終わりです〉

受験番号	
氏名	

(2017年度)

社会解答用紙 (その1)

問1 (1)

(2)

問2

	名前	都道府県名
あ		
い		
う		

問3 (1) (2) (3)

問4

問5 (1) 青山 猿江 大塚

(2) ①

②

(整理番号)

小計

